

◇第三十六回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要開催

九月十七日・十八日にかけて第三十六回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要への高岡教区団体参拝が催され、第三ブロック（糸岡・砺波・若神・川上組）を中心に二十九名が参加した。

十七日は築地本願寺で開催された東京教区主催の「へいわフォーラム二一〇六」に参加。東京工業大学教授の中島岳志氏が「自主規制はいかにして起こるか」との講題で講演。秘密保護法やマスコミの報道自主規制を引き合いに出しながら、「自主規制はそこまで法律や規則で規制していないにもかかわらず、規制される側があまりにも深く空気を讀んだり、あるいは勘繰ったりする中でどんどん規制内容を強めていくということが起こる」との指摘をされた。講演会のあと、講師と丘山願海総合研究所所長との対談があった。

翌十八日は午前中にNHKホールを見学したのち、午後の千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要へ参拝。法要に先だって宗門関係学校生徒二名の作文朗読があり、宗門として恒久平和への願いを新たにすため「平和の鐘」が撞かれ、鐘の音が響く中を各教区の門信徒代表による献花が行われた。その後、石上総長によって「平和宣言」が読み上げられた。全戦没者追悼法要は最初に前門様の焼香があり、各教区教務所長・教区代表者が参勤しての音楽法要で勤修され、一緒にお勤めを唱和する参拝者の声が墓苑に響き渡った。



今年度は法要日が連休と重なったこともあり、特に墓苑に準備された椅子に空席が目立った。近年は参拝者が減少傾向にあるということで、宗派として各教区に対して法要参拝の奨励を強く呼びかけており、高岡教区としても団体参拝の継続について検討することになっている。

◇仏教婦人会連盟実践運動研修会Ⅱ開催

去る九月三十日（金）西本願寺高岡会館において仏教婦人会連盟実践運動研修会Ⅱが開催され、百八名の会員が参加した。

教区仏婦連盟では年二回の実践運動研修会を開催しており、今回はその二回目にあたる研修。

テーマは「浄土真宗とは何か―親鸞聖人の生き方に学ぶ―」。今まで受け継がれていた伝統の多くが受け継がれなくなりつつある中で、今一度原点に立ち返り、親鸞聖人がその生涯をかけて私たちに伝えてくださったものは何か、私自身は何を受け継ぎ、何を伝えていくのかを改めて考えることをねらいとして設定されたもの。

講師の立川証氏（教区布教団副団長 川上組浄教寺住職）は『自信教人信』というように人と人との関係性を非常に重視するのが親鸞聖人の教えであり、自分の中だけで完結する閉ざされた信心理解は間違いであるとした上で、聖人が関東在住の際に出会った大飢饉に触れ、「人々が飢えに苦しみながら死んでいく光景を目の当たりにされた聖人は、はじめは三部経の千部読誦を志しましたが、結局はそれを『念仏に何の不足があるのか』と中断します。

何もできなくとも死にゆく人の手を取り、飢えに苦しむ人たちの苦悩のその場にもにいる。それが聖人の見出した道、生き方はなかったか。」と提言された。また、御影伝などの書物に描かれた聖人の姿が全てではなく、肉食妻帯がタブー視される時代に記されたそれらの記録からは、女性などの姿が排除されているが、実際には親鸞聖人という方は女性をはじめ、被差別の人々たちなど多くの人と関わりの中で生きられた方であったとした。

「何か正解があつてそれを伝えるということが法灯・伝統を伝えるということではなく、聖人も山あり谷ありの人生の中で時には翻弄されながらも人々の苦悩と向かい合っていた、その生き方に私たちの自信教人信ということのヒントがあるように思います」

また、聖人の妻帯に触れ、男性が女性の家に通う「通い婚」が当時の習わしであったこと、恵信尼の方が法然門下では先輩であったことを挙げ、「聖人が恵信尼を導いたように思いがちですが、実際には恵信尼が聖人に大きな影響を与えたのではないか。」と提起され、恵信尼は従属的な立場などではなく、聖人の生き方を決定づけるほどの非常に重要な存在であり、現代における女性も同じ役割を果たすことができるのでは、と激励の言葉をかけられた。

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

僧侶研修会を終えて

先月、僧侶研修会が三回にわたって開催され、昨日（六日）にはスタッフによる反省会も終了しました。担当者としては少しホッとしたところですが、気を引き締めつつあらためてこのコーナーでご報告させて頂きたいと思います。

今回の僧研は、テーマを「浄土真宗のあり方をさぐる―『人々の苦悩に応える』とは？―」とし、「日常の法務のなかで、私たちが今を生きる人々の課題を、どのような見、捉え、取り組もうとするのか、共に確認したい」と企画されました。

全三回での参加者は百二十三名、昨年度比で〇・五ポイント減でしたが、特に三回目が悪天候に見舞われ当日キャンセルが多数出たこと等が影響した模様です。

一方で、参加された方々からは「今回のテーマは待ち望んでいたものでしたので興味津々で受講しました」とか「門徒の方に就職（私・へっぽこ）がしつかりやれとエールをもらった」といったような感想が多く寄せられ、企画自体は概ね肯定的に受けとめられていたようでした。また、運営面でも「問題提起がていねい」「司会の方の進め方がよかった」「班別討議での話が深く、楽しい」「スタッフが本気で取り組んでおられる様子が伝わってきた」等々、好評価を頂いたことはとてもうれしいことでした。

しかし、参加状況の組間格差（参加率・四六・二％～十一・一％）や出欠の未返信の多さ（約四人に一人）といった問題は相変わらず克服されていません。これは単に一つの研修会だけの問題とは言えず、組活動の状況や、もっと言えば個々の人間関係にも関わ

る課題として考えていかねばならないと思います。今後、組長会や組主幹協議会においても協議を進めたいと思います。

また、僅かですが「差別問題も大切ですが、これからも現代社会の問題に焦点をあてたテーマを中心にしたほうが良い」といった「人々の苦悩」と「差別問題」を別なものとして捉える考え方や、「僧侶としての私と門信徒、社会の悩み」をそれぞれ違うものとして見ようとする参加者がおられた事が気になります。「悩み」ということをどう捉えるのか、といった「感性」の問題と言えまじし、「本来、教えが誰のため、何のために説かれたのか」という、私たちの「教えの頂きぶり」が問われる問題と言えまじし。

今回のアンケートや実際の研修の場面で見られたのは、参加された方々の「なんとかして人々の苦悩に応えたい」という真摯な姿勢でした。それは、それぞれの経験や立場、能力の違いを越えて共有されていたと思います。そして、そのことははっきりとした「答え」が導き出されずとも、それぞれの今後の「姿勢」に現れてくるものと確信しています。研修によって各々の課題が見出され、またお互いの課題克服のためのあらたな研修に向かっていく。私は主催者の立場ですが、しかし今回もとても重要なことを気付かせて頂きました。

反省会ではスタッフの各一人から「この成果を参加されていない方にもフィードバックすべき」と重要な提言を頂きました。これまで行ってきた参加データやアンケートの公表だけでなく、あらゆる機会を通して僧研の成果と課題を共有化していく事が求められていると思います。

◇これからの日程（10/22～11/21）◇

10月	教区・財団行事	教化団体・組行事
24		仏婦東日本大震災支援班 （～25）
26	組長会	長寿苑ビハーラ活動、コーラス（夜）
31	会計検査（～1）	
11月		
4		井波別院伝灯奉告法要団 参（～5）
8		コーラス（昼）
9		氷見西組伝灯奉告法要団 参（～10）
14	常例法座	
20		福光教堂報恩講（～21）
21	セミナー	
22		いろは塾

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。
一袋二枚入りで価格は次の通り

※ 一袋二枚入りで価格は次の通り

- ・特大箱（175袋）8,300円
- ・大箱（36袋）2,300円
- ・1組（10袋）500円

お申込み先は…高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)
Fax. (0766) 21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25
□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎10/22（土）：木田 知生氏・本多 隆朗氏
（龍谷ミュージアム館長・伝灯奉告法要行事本部長）

「貴重な名宝を見に行こう

～類聚古集、慕帰絵～

□10/23（日）：鷹屋 義行氏

（高岡教区川上組専勝寺）

◎10/29（土）：木田 知生氏・本多 隆朗氏
（龍谷ミュージアム館長・伝灯奉告法要行事本部長）

「未 定」

◎11/5（土）：高田 篤敬氏

（本願寺派布教使・岐阜県蓮教寺住職）

「未 定」

◎11/12（土）：高田 篤敬氏

（本願寺派布教使・岐阜県蓮教寺住職）

「未 定」

□11/13（日）：未 定

（富山教区）

◎11/19（土）：高田 篤敬氏

（本願寺派布教使・岐阜県蓮教寺住職）

「未 定」

【西本願寺高岡会館11月の常例法座】

ご講師：佐々木秀誠氏

（高岡教区得雄寺）

ご講題：『未 定』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。

★第10回宗勢基本調査高岡教区説明会

去る8月29日（月）午後2時より、標記説明会が開催され、教区内関係者約100名が参加されました。

また、当日配布の資料・宗派の集計結果等につきましては教務所にてご確認いただけます。

以上